

北インドラダックヒマラヤの地質：インダス累層下部の礫岩中のチャート礫から得られた放散虫

Geology of Ladakh Himalayas in northern India: Radiolarian fossils from chert clasts in the lower part of Indus Formation

小嶋 智 [1]; 永広 昌之 [2]; 大谷 具幸 [3]; Ngo Thanh X.[4]; 板谷 徹丸 [5]; Ahmad Talat[6]

Satoru Kojima[1]; Masayuki Ehiro[2]; Tomoyuki Ohtani[3]; Thanh X. Ngo[4]; Tetsumaru Itaya[5]; Talat Ahmad[6]

[1] 岐大・工・社会基盤; [2] 東北大・総合学術博; [3] 岐阜大・工; [4] 岡理大・理・総合理学; [5] 岡山理大・自然研、神戸大・自・地球惑星; [6] デリー大・地質

[1] Dept. of Civil Eng., Gifu Univ.; [2] Tohoku Univ. Museum; [3] Gifu Univ.; [4] Applied Sci., Okayama Univ. of Sci.; [5] RINS, Okayama Univ. of Sci.; Earth Planet. System Sci., Kobe Univ.; [6] Dept. of Geol., Univ. of Delhi

インド北部、ラダック地域のインダス縫合帯には、インダス累層と呼ばれる白亜紀～古第三紀の碎屑岩類が分布する。インダス累層下部には礫岩層が発達し、その中には径数 cm の赤褐色のチャート礫が含まれる。レー南東のウブシおよびヘミス周辺から採取したチャート礫から、以下のような放散虫化石を得た。1) *Pantanellium squinaboli*, *Archaeodictyomitra apiarium*, *Pseudodictyomitra carpatica*, *Pseudodictyomitra lanceoloti*, *Wrangellium puga*, *Thanarla* spp. などを含む白亜紀前期の群集。2) *Tricolocapsa plicarum* と *Tricolocapsa tetragona* の共存で特徴づけられるジュラ紀中期の群集。3) *Capnuosphaera* spp. やコノドントを含む三畳紀後期の群集。これらのチャートは、ユーラシア大陸とインド亜大陸の間に存在したテチス海の海洋プレートを覆う深海遠洋性堆積物であった可能性が高い。これまで、ラダックヒマラヤ～パキスタンにかけてのインダス縫合帯からは、テチス海の深海底堆積物として白亜紀の証拠しか得られていなかった。本報告はカラコルム地塊の Gondwana 大陸からのリフティングの開始が三畳紀後期以前にまで遡る可能性を示唆する。